

シヤワー

作・矢内文章

登場人物

- アルファ…女性型ヒューマノイド
- ガンマ…男性型ヒューマノイド
- ファイ…2世代最新の男性型ヒューマノイド
- アビー…研究所から逃げ出した女性。
- カツツ…アビーと一緒に逃げているクローン人間の男性。
- ラン…アビーと一緒に逃げているクローン人間の女性。足が悪い。
- クロエ…国立原子力発電廃炉研究所の主任研究員。
- ピート…クロエの助手。
- トム…街から研究所にやってきた男性。
- ロビン…トムの妻。同じく研究所に入所した女性。

近未来の荒野。

岩や土くれが広がっているが、建物の基礎部分などが遺跡のようにとこ
ろどころ顔を出している。元々は町だったのかもしれない。

ヒューマンノイドのアルファとガンマは、そこだけ雑草がちらほら生えて
いるひとつの土塁にいて、井戸のような穴を守っている。

秋の夕暮れである。
風が走っていく。

道化のような姿のアルファが大きなシャボン玉を飛ばしている。
やはり道化のようなガンマは腰を下ろして考え事をしている様子。

アルファ

(歌っている) シャボン玉飛んだ。屋根まで飛んだ。屋根まで飛んで、
こわれて消えた。風、風、吹くな。シャボン玉飛ばそ。(ガンマに) 元気
ないなあ。なに、その違和感って？

ガンマ
アルファ

∴。(頭を抱えたり、叩いたりしている。)
バグじゃない？ 違和感なんてしゃれたものじゃないって。バグ。心
配ないよ。すぐ更新プログラムがくるから。

ガンマ
アルファ

あー、違和感。
(笑いながら) だから、バグだって。じゃなかったら、ちよつとした
不具合。微弱電流は放射線の影響受けるんだし。

ガンマ
アルファ

∴頭がすっきりしない。
また。人間みたいなこと言って。ほら。(シャボン玉セットを渡そうと
する。)

ガンマ
アルファ

おれはいいよ。
ええ？ ずるいよ。私はもう200回過ぎたよ。

ガンマ
アルファ

今度まとめてやるから。勘弁。(頭をいろいろな角度から叩いたり、チ
ョップしたりする。)

ガンマ
アルファ

ねえ、そんなに大雑把にできてないよ、私たち。精密機械なんだよ、
一応。叩いたら余計壊れる危険性が増しますでしょ？

うん。わかってるよ。うん。はああ。
ため息つて。人間かよ！ もう、シャキッとしないなあ。なに？ 人
間扱いされたいの？ (強く) 顔洗って出直してこい。∴、ふんどし締
めなおせ。∴(優しく) シャワーでも浴びてきたら？ ∴もう。(再び強
く) キンタマついてるのか？ イエス、ユーキャン！ (ヤケクソに)
気合だ気合だ気合だ！ ∴バカバカしい。いいよ。しばらくそうしてな
よ。どうせ更新プログラムが来たら何事もなかったようになるんだから。

アルファはまたシャボン玉を飛ばし始める。

アルファ
シャボン玉飛んだ。屋根まで飛んだ。屋根まで飛んで、こわれて消えた。風、風、吹くな。シャボン玉飛ばそ。

ガンマ
(シャボン玉を眺めながら) 綺麗。

アルファ
え？

ガンマ
綺麗。：こういうの、綺麗って言うんだろ？

アルファ
：そうね。綺麗。今さらなに言ってるの？

ガンマ
美しいのかな、これ？ ちよっとニュアンス違うよね。綺麗と美しいじゃ。

アルファ
ニュアンス？ 使い方ってこと？

ガンマ
美しいは、綺麗よりもっと大きなものというか。

アルファ
これじゃ小さいの？

ガンマ
いや、意味が。「美しい」はもっと大きなものを表しているというかなんというか。えっと、美しい。(大きなものを表して) 美しい！

アルファ
(真似をして) 美しい！

ガンマ
美しい！

アルファ
美しい！：大きなものって、例えば？

ガンマ
例えば、愛。

アルファ
愛。苦手だな、愛。

ガンマ
そうなの？

アルファ
うん。一番わからない。

ガンマ
うん。不可解だね。

沈黙。

アルファが再びシャボン玉を飛ばす。

アルファ
(歌って) シャボン玉飛んだ。屋根まで飛んだ。屋根まで飛んで…

ガンマ
でも、「綺麗な愛」と「美しい愛」には違いがあると思うんだ。

アルファ
え？

ガンマ
「綺麗な愛」と言うと、ネガティブな要素を廃した清潔な匂いが逆にネガティブなニュアンスになっていて、「美しい愛」はネガティブもポジティブも包んでいるような、だからこそポジティブなニュアンスになっていると思う。

沈黙。

アルファ
(歌って) シャボン玉飛んだ。屋根まで…

ガンマ
おい。

アルファ
：愛は不可解なのでしょ？

ガンマ
うん。

アルファ
じゃ、「綺麗な愛」も「美しい愛」も不可解じゃないの。

ガンマ
でも、ニュアンスは…
個体差。

ガンマ
え？

アルファ
記憶によるでしょ。それぞれの。

ガンマ
うん、わかるよ。個体差。ああ、だからかもしれないな。

アルファ
え？

ガンマ
おれ、クラウドのデータをうまく使えないんだ。記憶とマッチしなくて。

アルファ
ああ、違和感ね。アジャストできないの？ クラウドと。

ガンマ
うん。どのデータを活用するべきかってね。迷うんだよ、多すぎて。

アルファ
平均でいいのに。

ガンマ
いいの？

アルファ
だって、すべてに配慮するのは無理でしょ。クラウドにはとてつもなくたくさんのデータがあるんだから。平均的などところで正解。

ガンマ
個体差がなくなっちゃうよ。平均ばかり選んでいたら。

アルファ
だから。記憶によるでしょ。それぞれの。それぞれがそれぞれの記憶を基準にしてデータを平均化するわけだから、それぞれの答えは記憶によって微妙に変わってくるじゃない。

ガンマ
…。うん、わかるよ。そうか。なにを基準にするかで平均は変わる。

アルファ
そして、その基準はそれぞれの記憶によって決まる。

ガンマ
そして、その記憶がそれぞれの個体差になる。

アルファ
…よかったじゃない、バグってるんじゃないか。

ガンマ
うん。迷ってるんだね。

アルファ
だから、人間かっつての。

ガンマ
…基準が定まらないのは、記憶のせい。どれを物差しにしたらいいか迷っている記憶だからだ。

アルファ
そっか。

ガンマ
うん。だからクラウドとうまくマッチしない。こういうの、人間だったら違和感っていうんだ。…バグと違うよな？

アルファ
また？ だったらどうするの？

ガンマ
メンテナンスしなきゃ。もたないよ、この先。

アルファ
…この先？

ガンマ
うん。

アルファ
…ガンマの言う先って、どのくらい先のこと？ 10万年？

ガンマ
沈黙。

アルファ
アルファが無言でシャボン玉を飛ばす。

ガンマ
アルファ…

アルファ
(荒っぽく歌いだす) シャボン玉飛んだ。屋根まで飛んだ。屋根まで

ガンマ
アルファ

飛んで、壊れて消えた。風、風吹くな。シャボン玉飛ばそう。

うん。大丈夫。バグだとしてもそのうち更新プログラムが来るよな。そうだね。で、プログラムが更新されて、その違和感もなくなる。違和感があったかどうかもわからなくなる。なぜなら違和感がないから違和感を気にすることもなくなるから。

ガンマ

いや、記憶が書き換えられるわけじゃないから、違和感を持っている今の記憶は蓄積されるはず。え？ 記憶が書き換えられるのか？

アルファ

どっちでもいいんじゃない？

ガンマ

え、大事だぞ、記憶。

アルファ

どっちでもかわりないでしょ。私たちここでこうしているだけなんだから。ずっと。この先。ずっと。この立ち入り禁止区域で、ずっと。

ガンマ

うん。うん。わかるよ。なにも影響はないって言いたいのだろ？

アルファ

…。(シャボン玉を飛ばす)

ガンマ

記憶がどうでも。個体差がどうでも。この先の長い時間のなかでは、どこにも、何にも影響しない。うん、わかるよ。

アルファ

そこまでわかっているならご立派ご立派。言葉のシャワーはもうお止めくださいませ。なによ、さつきまでだんまりだったくせに。

ガンマ

…もったいないな、違和感。

アルファ

はああ…。(ため息の真似をしてみる)

ガンマ

誰も来ないし、何も無い。いやいや、ここに誰も来ないのは、あるからただだね。ははは。

アルファ

…。(動かない)

ガンマ

でもさ、アルファ。ここにある、という記憶がどんどん他の記憶に埋め尽くされていくよ。

アルファ

…。(動かない)

ガンマ

…アルファ？

アルファ

しっ！

ガンマ

…。

アルファ

(小声で) ロボット3原則。

ガンマ

え？

アルファ

早く。ロボット3原則。

ガンマ

(アルファと距離を取り、穴を守りながら) 第1条。ロボットは人間に危害を加えてはならない。また、その危険を看過することによって人間に危害を及ぼしてはならない。第2条。ロボットは人間に与えられた命令に服従しなければならない。ただし、あたえられた命令が第1条に反する場合は、この限りではない。第3条。ロボットは、第1条および第2条に反する恐れのない限り、自己を守らねばならない。

アビーとカツツが走ってくる。

ふたりはスタイリッシュだが、囚人服ともいえる格好をしている。

アルファ
ガンマ
アルファ
ガンマ

止まれー！
止まって！
止まりなさい！
止まってください。

アビーとカッツはアルファたちと距離を取って止まる。
息を切らせている。
アビーが近づこうとする。

カッツ
アビー
カッツ
アビー
カッツ
アビー
カッツ
アビー
アルファ

アビー。：やめろってアビー。(腕をつかむ)
(振り払おうとする) いいから…
やつらの仲間に決まってるだろ。
わからないよ。
いいから逃げるんだよ。まだそんなに離れてねえんだから。
このままじゃ、どっちでも同じだよ。
行くぞ、アビー。
やめてよ。(もみ合う二人)
ガンマ！

アルファとガンマが位置を入れ替わる。ガンマがアビーたちに対して近く、アルファは穴を背にする。

ガンマ
やめてください！

身構えるアビーとカッツ。

ガンマ
カッツ
ガンマ
カッツ
ガンマ
アルファ
ガンマ
カッツ
ガンマ
カッツ
ガンマ
カッツ
アビー

そちらの男性の方、手を放してください。傷つける恐れがあります。
放っておいてくれ。
そうはいきません。このままでは傷つける恐れがあります。
そんなことしねえよ。
そうでしょうか？(考える)
ガンマ！
やはり手を放してください。
は？
このままでは傷つける恐れが…
わかったよ。(手を放す)
ありがとうございます。
：(アビーに) 行こう。
待ってよ、カッツ。

アルファとガンマが入れ替わる。

アルファ
アビー
そのまま引き返してください。

アルファ
アビー
え？
引き返してください。ここは立ち入り禁止区域です。

アルファ
アビー
…。あの、水をちょうだい？

アルファ
アビー
水、ですか？

アビー
そう、水をちょうだい。もう喉がカラカラで死にそうなの。

ガンマ
アビー
：少々お待ちください。

アビー
ありがとうございます！

アルファ
ガンマ？

ガンマ
死にそうと言っている。

アルファ
ガンマ
今すぐという意味ではありません。

ガンマ
しかし、この区域から出るまでキレイな水を得られる可能性はありません。

アルファ
ガンマ
川や沼地、溜まり水に出会う可能性はあります。

ガンマ
それらからは汚染物質を取り込んでしまう可能性があります。

アルファ
ガンマ
つまり、傷つく可能性が大きいと？

ガンマ
そうです。

アルファ
ガンマ
拡大解釈ではありませんか？

ガンマ
そのきらいはありますが、そもそも彼らを助けたい規則はありません。

アルファ
ガンマ
役職から逸脱しませんか？

ガンマ
彼らを助けることでこの区域から出て行ってもらうのですから、現時点ではむしろ役職に適っていることとも考えられます。

アルファ
貴重なものですが？

ガンマ
その視点からの判断はモラルが問われることになります。

アルファ
ガンマ
では、「しょうがない」ですね。

ガンマ
「しょうがない」です。(二人は頷く)

アルファ
ガンマ
(アビーたちに)今、用意します。

アビー
ありがとうございます！

アルファはガンマが守る穴に近づく。
それを見て、アビーとカッツはアルファたちに近づく。

ガンマ
アビー
(身構えて)来てはいけません。

アビー
え？

ガンマ
それ以上、来ないでください。

カッツ
なんなんだよ！

アルファ
アビー
カツ

私が持っていくます。来ないでください。
なに？
知るかよ。面倒臭いんだよ、ヒューマノイドは。

アルファが穴に入っていく。
ランが足を引きずりながらやってくる。

ラン
アビー
ラン
アビー
ラン
アビー
ラン
アビー
ラン
アビー
ラン
カツ
ガンマ
ラン
アルファ
ラン

アビー、カツ！
ラン！
置いてきぼりにしないでよ！
（ランに駆け寄りながら）そんなことしないよ。
嘘。するつもりだったんでしょ？
ちがう、なんとか水をもらおうと…
足が悪いのはあたしのせいじゃない。
わかってるよ。ごめんね。
…あんたらが早すぎるんだよ。
うん、ごめんね。
…あたしも、ごめん。
ほら、今、水がもらえるから。
水？ 水。水―。（と駆け出す）
おい！
来ないでください！ 来てはいけません。
え？ なんでよ？ 水！
今、そちらに持って行きます。
もったいぶらないですよ！

ランが近づこうとするが、ガンマが立ちふさがる。

ガンマ
ラン
ガンマ
ラン
ガンマ
ラン
アビー
カツ
ガンマ
ラン
カツ

下がってください。
な、なによ、あんた。あたしは水が欲しいの。
下がちなさい。
あんた、ヒューマノイドでしょ？
警告する！ この指示に従わなければ、身体的打撃を加え、強制排除する。
ちよつと。なんであたしに命令するの？
ラン、やめよう。
やめろ。
やめさせなさい。
なによ、あんた？
（引き離しながら）やめろって。

ラン
カッツ
なんでよ？
知らねえよ。なんか大事なものでもあるんだろ。

アルファが出てくる。

アルファ
アビー
水です。動かないでください。そちらに持っていきます。
ありがとうございます！

金属製の缶を持ったアルファがアビーたちに近づく。

アルファ
どうぞ。

ランがすばやく受け取り、缶を開けようとする。

アルファ
アビー
カッツ
アビー
カッツ
カッツ
カッツ
アビー
だつてよ…。

(皆に) 開いた！ (と二人に示す)
やった！

…。(飲もうとするが、二人を気にしている)

いいよ、飲んで。

うん。(勢いよく飲む)

おい、ストップ！ 全部飲むなよ。

おいしい！ 何、この水？

(缶を奪いながら) なんだつてうまいだろ、こんだけ干からびてりゃ。

(アビーに差し出し) ほら。

いいの？

飲めよ。

うん。(一口飲むが、カッツの視線を感じて) …はい、おいしいよ。

でしょ！

もつと飲めよ。

うん。(遠慮していたが、勢いが増す)

あー。

ごめんごめん。ほんとにおいしい、これ！

…。

飲みなよ。

(一口飲んで吐き出す) 毒でも入ってるんじゃないやねえだろな？ こんな
水飲んだことねえぞ。

アビー
え？

カツツ
(アルファに) おい、やっぱり殺すつもりか？

アルファ
いいえ。ただ、あなた方が普段飲んでいる水とは確かに違います。それは…

ガンマ
アルファ！

…。

カツツ
おい。それは、なんだよ？

アルファ
あなた方が飲んでいるリサイクル水ではありません。

カツツ
だから、なんなんだよ？

アルファ
リサイクル水ではありませんが、キレイな水です。

アビー
ねえ、もしかして天然水？

カツツ
は？ 天然水が飲めるわけねえじゃねえか。

アビー
でも、もしかしたらまだ汚染されてない水があるのかも。(アルファに) ねえ、そうじゃないの？

アルファ
答えられません。

カツツ
なんだと？

アルファ
私にはどちらとも答えられません。

ラン
なんなのよ、あんたたち。

警報音が鳴り、ガンマが皆に近づく。

ガンマ
ただちに立ち去ってください。それ以上の詮索は認められません。

アビー
ねえ、どういうこと？

カツツ
まだ飲んでねえぞ。

ガンマ
立ち去りなさい。従わねば、身体的打撃を加えることになります。

カツツ
てめえ！

アルファ
やめなさい！ あなた方は向こうの研究所から来たのですか？ あ、

来たのですね？ わかります。その服の属性が判明しました。通報して

もよろしいですか？

ラン
やめて！

カツツ
くそつ。ふざけやがって。行くぞ。

ラン
うん！

(動かないアビーに) アビー、逃げるぞ。

アビー
(アルファに) ねえ、お願い。私たち、捕まったら殺されてしまう。

お願いだから通報しないで。私たち、命がかかっているの。

…アルファ？

ガンマ
お願いします。

アビー
我々はその研究所とは関係ありません。立ち去るなら、通報する義務

はありません。

アビー
ありがとうございます！ (カツツとランに) 行こう！

カツツ

おう。

ガンマとアビーでランの手助けをしながら、三人は駆けていく。彼らを見送ってから緊張状態を解くアルファ。警報が鳴り続けている。

アルファ

…ガンマ。

ガンマ

うん。(警報を止める)

アルファ

…。ありがとうって言われた。

ガンマ

…「嬉しい」?

アルファ

わからない。でも今は、秘密保護法が嬉しくない。

ガンマ

うん。何が秘密とも言えないからな。

アルファ

結局ああするしかなくなっちゃう。

ガンマ

「しょうがない」かな。

アルファ

「しょうがない」ね。…10万年続くんだよね、こういうの。

ガンマ

うん。予定では。

沈黙。

アルファ

いつまで綺麗な、水。

沈黙。

ガンマ

…よかったよ。

アルファ

え?

ガンマ

彼らが従ってくれて。傷つけずに済んだ。

アルファ

…そうね。

ガンマ

なあ、やっぱりバグかもしれない。

アルファ

え?

ガンマ

アルファ。きみはちゃんと自爆できていたかい? もし彼らが制止を

アルファ

振り切ったあの中に入ろうとしていたら。自爆。彼らもろとも。

ガンマ

…。自爆。しなきやね。

ガンマ

…バグかもしれない。

アルファがシャボン玉を飛ばし始める。

アルファ

(歌って) シャボン玉消えた。飛ばずに消えた。産まれてすぐに、こわれて消えた。風、風、吹くな。シャボン玉飛ばそ。

歌声のなか、溶暗。